

井手町地域創生推進室

令和4年度

地方創生関係交付金 事業評価調書

## 目次

### ＜地方創生推進交付金＞

1. 「子育て、子育てにやさしい」京都創生プロジェクト事業・・・P 2
2. あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を  
～みんなが主役の地域振興事業～・・・・・・・・・・P 6
3. 京都やましろ地域×東京しぶや連携  
～和文化×多文化 関係人口創出プロジェクト～・・・P 10

### ＜地方創生整備推進交付金＞

1. ～自然と共に生きる井手の里山～周遊観光ルート整備創生計画・・・P 14

# 1. 「子育て、子育てにやさしい」京都創生プロジェクト事業 (地方創生推進交付金)

**交付対象事業名：** 「子育て、子育てにやさしい」京都創生プロジェクト事業

**事業額：** 2, 401, 467円 **交付金充当額：** 1, 200, 733円 (補助率1/2)

## 事業内容

### 1. 大学との連携による子育て支援と交流の場づくり【実績額：806,979円】(地域創生推進室)

○空き家を活用した京都産業大学井手応援隊活動拠点事業

① 京都産業大学井手応援隊活動拠点「むすび家ide」運営事業【実績額:306,979円】

町内小学校の児童を対象とした寺子屋については、京都産業大学井手応援隊の学生がオンライン(パソコンの画面越し)で児童の学習支援及び交流企画を実施した。また、学生と協働で実施する「むすび家」カフェは未実施となったが、拠点施設の賃借を継続し、定期的に敷地内の草刈り等を行うとともに、コロナが終息後カフェ再開に向けての検討を進めた。

② 学生による地域課題解決支援事業【実績額:500,000円】

「井手！みねーしょん」等のイベントはコロナの影響もあり中止。町内の関係団体等から地域課題を聴取し、学生の視点で課題解決の方策を提案し実践する「井手町版キャップストーンプログラム」については、①井手やまぶき支援学校からの依頼により、支援学校内に井手の竹を用いたおもちゃ(スコップ・水鉄砲・コップ)と「わくわくパーク」という手作りの砂場づくりや、②まちづくりセンター椿坂に作られたピザ窯を活用し、井手町の特産品を使ったピザのレシピづくりに取り組み、将来にもつながる地域交流の取り組みが行われた。

### 2. 地元企業と連携した子育て世帯向け講座・イベント開催【実績額:191,219円】(住民福祉課)

「おもちゃ図書館」の実施をはじめ、井手町商工会が主催する「百縁商店街」の日と併せて、子育て家族を対象に「小皿の絵付け体験」を井手町子育て支援センターを会場に実施した。地域在住の京焼伝統工芸士の絵付け教室の協力により、普段、井手町子育て支援センターを利用していない方々も多くセンターへ来ていただくことでセンターの支援内容など、地域の子育て層へ広く周知し、子育て支援のネットワークの醸成へ繋がった。

### 3. 図書館による出張貸出【実績額:202,535円】(社会教育課・住民福祉課)

毎週水曜・金曜に図書館出張貸出として、町内2拠点において貸出を実施した。また、住民福祉課、子育て支援センターが実施する「おもちゃ図書館」の会場において、出張貸出を実施した。ともに、児童書、絵本を始めとした子供向けの図書や、育児書、料理書、女性向け雑誌など母親向けの図書・雑誌資料を重点的に用意し、子育て世代が自宅の近くで貸出を受けられる環境づくりに取り組んだ。

# 1. 「子育て、子育てにやさしい」京都創生プロジェクト事業(地方創生推進交付金)

KPI (府全域)

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前		本事業終了時の目標値		令和4年度の目標値		令和4年度の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
モデル地域市町村における人口の社会減解消 (人/年間)	-926	R3.3	0	R8.3	-626	R5.3	-117	R5.3
市町村による重点取り組みエリアの設定 (箇所/年間)	4	R3.3	29	R8.3	14	R5.3	19	R5.3
エリアの起業数、雇用数等 (関係人口の創出) (件/年間)	0	R3.3	580	R8.3	145	R5.3	未発表	R5.3

# 1. 「子育て、子育てにやさしい」京都創生プロジェクト事業（地方創生推進交付金）

## 事業の効果

- 「むすび家ide」は、新型コロナウイルスにより、京都産業大学井手応援隊の学生の頻繁な町への訪問が困難であったことから、地域交流や賑わいづくりを目的とした寺子屋を、基本的には対面形式（1回のみ実施）ではなく、オンライン形式（パソコンの画面越し）での児童の学習支援及び交流企画を実施した。年間を通じて町家カフェは未実施となった。施設の賃借、維持管理は継続し、コロナ終息後の町家カフェ等の再開に向けて、検討を進めた。
- 井手応援隊の学生がむすび家においてイルミネーションを実施するなど、むすび家寺子屋inクリスマス企画を実施した。町内の関係団体等から寄せられた課題について、解決策の検討や提案、実践までを学生が行う「井手町版キャップストーンプログラム」については、井手町まちづくり協議会からの依頼により、井手町の素材を生かしたピザレシピを考案し、子供向けと大人向けの2種類のレシピ集を作成した。製作したレシピは井手町まちづくり協議会が実施した中学校と連携したピザ窯体験や、特産品としての商品化も視野に、今後町の活性化への貢献が期待される。また、井手やまぶき支援学校からの依頼により、校内での児童の遊び場（砂場）や竹のおもちゃ製作（スコップ、水鉄砲、コップなど）に取り組んだ。制作した遊び場は、支援学校でお披露目し、児童や教員の方々から「新しい遊び場ができて嬉しい」「大学生との交流はとてもいい経験になる」等の声が多数寄せられ教育環境の向上に貢献した。

## 今後の展開

- 令和5年度より、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら慎重に検討していく必要があるが、むすび家での井手応援隊の学生による寺子屋事業の対面形式での実施及び町家カフェの再開を進めていく。むすび家での各種企画の実施や地域イベントへの参画など、引き続き学生の主体的な活動を支援していく。
- 「井手！みねーしょん」等の大規模イベントの開催については、町の情勢を踏まえながら、更なる効果的な新たな魅力発信、活性化に寄与するサステイナブルな事業実施を学生目線で展開していく。
- まちづくりセンター椿坂は、サービス内容を一部制限したうえで、令和4年度に引き続き開館。今後、コロナの感染拡大状況を見てサービス内容の拡充（会館日数の拡充や物販販売の再開等）についても検討していく予定。また、市町村間の大きな移動を伴わない、町内の子どもを対象とした椿坂での体験企画等を中心に実施を検討している。  
昨年引き続き、食品や工芸品等のお土産品の開発や椿坂周辺への花等の補植や庭の整備など、地域の新たな魅力づくりにも取り組む予定

# 井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	5
どちらかといえば有効であった	4
どちらともいえない	0
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

## 委員の主なコメント

- コロナ禍での活動が難しいなか、オンラインの活用等アイデアを出し合っただけの交流は効果があったと感じた。コロナ後に向けて、更なる活動の場を増やしていただきたい。（金融機関・産業界）
- 大学との連携も10年を超えて継続していることにより、町民との信頼関係が築けており効果が上がっていると感じる。（学識経験者）
- ピザレシピなど公開しているので、今後、様々な団体に活用していただきたい。（産業界）
- 井手町には、多くの古民家や空き家等があると思うので、それをリノベーションし寺子屋などの事業をもっと推進していただきたい。（産業界）
- 一般人も体験できるイベントをもっと増やしていただければ参加したい。（子育てサークル）
- 私自身も知らない取り組みが多かったので、地域全体に周知できたらよいと考える。（子育てサークル）
- 各年度の事業内容については、町民が何を求めているのかヒアリングが必要。（金融機関）
- 評価をする前提として、効果を測定する目安となる指数を示したほうが、より分かりやすくなると思う。（行政機関）

## 2. あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を～みんなが主役の地域振興事業～

(地方創生推進交付金)

交付対象事業名：あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を～みんなが主役の地域振興事業～

事業額：4,839,500円 交付金充当額：2,419,750円（補助率1/2）

翌年度繰越額10,000,000円

### 事業内容

#### 1. DMOが行う地域マネジメント推進費【実績額：550,000円】（地域創生推進室）

広域的観光やまちづくりを推進する「お茶の京都DMO」に分担金を負担することで、広域・統一ブランディングでの観光・集客サービスの提供や地域資源を活用した取組の推進を行いました。

（井手町関係の主な取組内容）

- ① ユーチューバー「戦国万歳」の伊賀越えや「ことりっぷ(co-Trip)」への掲載
- ② 全国お茶まつり京都大会の井手町ブースの出店
- ③ JR奈良線複線化開業に合わせて、京都駅ビル西口広場で沿線市町村PRイベントを実施

#### 2. 子育て世代と地域を結ぶコミュニティづくり【実績額：1,619,750円】（地域創生推進室）

① 特産品開発推進のための研修・試作等の実施に係るコンサルティング業務委託費

・道の駅的施設での販売及びふるさと納税返礼品の拡充のため、4回のワークショップを行いニーズや消費者の反応を図るため、みなみやましろ村道の駅や京都市内「鴨川納涼」「全国お茶まつり京都大会」でテストマーケティングを実施した。

#### 3. 山背古道でつなぐ広域まちづくり事業【実績額：250,000円】（企画財政課）

山背古道は新型コロナウイルス感染拡大で中止となっていた山背古道春のハーフウォーク、とことんウォーキングを令和4年度から再開。また山背古道探検隊への委託事業として「山背古道探検隊プロジェクト」も開催。さらに能動的にまちの魅力を発見・体感することができ、SNS等を活用してウォーキングを違った角度から楽しんで頂ける謎解きラリーの第2弾も開催した。

#### 4. 魅力ある雇用と新たな交流を生む道の駅づくり（ハード事業）【実績額：0円】（地域創生推進室）

令和4年度物販管理システムは令和4年度に契約を交わしたが、令和5年度の納入となるため翌年度繰越となった。

## 2. あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を～みんなが主役の地域振興事業～

(地方創生推進交付金)

### KPI (府全域)

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前		本事業終了時の目標値		令和4年度の目標値		令和4年度の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
地域への移住者、地域活動にかかわった地域外の人 の延べ人数 (人)	704	R3.3	1,114	R8.3	814	R5.3	1,119	R5.3
地域での新規就職者数 (人)	1,053	R3.3	1,553	R8.3	1,253	R5.3	874	R5.3
本事業により空き家等を 活用して交流を行う拠点数 (箇所)	0	R3.3	15	R8.3	3	R5.3	4	R5.3
地域の一人当たり所得向上 額 (千円)	3.6	R3.3	363.6	R8.3	113.6	R5.3	128	R5.3



## 2. あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らしを」～みんなが主役の地域振興事業～ (地方創生推進交付金)

### 事業の効果

- お茶の京都DMOとの連携事業において、観光WEB情報誌、SNSやイベントを活用することができ、井手町の店舗や特産品や観光資源をアピールすることができました。また、京都駅ビル西口広場で井手町をPRすることで、井手町を知っていただく機会を創出できた。
- 特産品開発推進のための研修・試作等の実施に係るコンサルティング業務委託費については、4回のワークショップを行うことで、事業の狙いや流れを確認し、特産品開発参加者の商品の試食や意見交換、講師からのアドバイスをいただくことで、商品の強み、弱みを知ることができた。テストマーケティングでは、市場での需要を肌で感じることができ、商品開発参加者への意欲増進につながったとともに、約総勢300人の消費者より商品の味、外見、値段に関する意見・評価などの市場の反応を把握することができた。課題の発見、解決を繰り返すことで現在では7つの商品開発に成功している。
- は～ふウオークは、飲食などを提供するほっとコーナーの開設は見送ったが、472人が参加。また新型コロナウイルスの感染対策を徹底して従来に近い形で開催したとことんウォーキングには564人が参加された。「山背古道探検隊プロジェクト」では、イベントでの山背古道PR活動や、井手町多賀の茶園などにて茶園整備、茶葉の収穫・加工などを実施する「お茶探検事業」等を通じ、山背古道の魅力を発信した。謎解きラリーの第2弾も開催。謎解きキットを1,700セットを作成、山背古道の魅力向上に寄与した。

### 今後の展開

- 特産品開発推進事業支援の今後の方針として、味や外見だけでなく、共感を生むストーリーを加えるなどの差別化要因を付加することにより、消費者が買う理由付けを行う。また、在庫切れや品質低下などで消費者が不信を抱かないよう安定的出荷量の確保・品質の均一化を図る。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、屋外でのウォーキングの需要は高まっており、今後も引き続き、謎解きキット作成などによる工夫を凝らした企画や、山背古道PR活動や講演会、学習会等を実施する「山背古道探検プロジェクト事業」などを通じ、山背古道の魅力周知を図る。

# 井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	5
どちらかといえば有効であった	4
どちらともいえない	0
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

## 委員の主なコメント

- コンサルを入れた商品開発は効果があり、テオテラスいでを活用して、ますます充実していただきたい。（金融機関）
- 特産品開発に関して、今後もテストマーケティングが必要だと感じた。（金融機関）
- 具体的な特産品開発にめどが立つなど、テオテラスでの販売拠点もあり、有効な事業であると判断する。（学識経験者）
- 謎解きラリーは、とても興味があるが、知らなかったので周知していただきたい。（産業界）
- 特産品がたくさんでき、町外からも買いに来られる方が増えればよいと思った。（子育てサークル）
- 特産品開発事業により、雇用の創出につながればよいと思った（子育てサークル）
- 子育て世帯の親が関われる事業もできれば楽しそうだと思った。（子育てサークル）
- お茶や竹の子など、井手町ならではの魅力を使用した特産品を開発すれば、より活性化につながると感じた。（産業界）

### 3. 京都やましろ地域×東京しぶや連携 ～和文化×多文化関係人口創出プロジェクト～ (地方創生推進交付金)

交付対象事業名：京都やましろ地域×東京しぶや連携～和文化×多文化関係人口創出プロジェクト～

事業額：248,000円 交付金充当額：124,000円（補助率1/2）

#### 事業内容

井手町を含む京都府山城地域（5市6町1村）と東京都渋谷区が連携し、両地域における人や企業の交流を促進させるプロジェクトを実施し、地方と都市がともに発展・成長するような新しい関係づくり及び「関係人口」の創出拡大を目指す。

計画期間：令和2年4月1日から令和5年3月31日まで（3か年度）

#### ・お茶の京都・東京しぶや戦略的交流事業

戦略的・効果的な事業展開を目指すため、民間委員及び京都府山城地域と東京渋谷区の各自治体職員等からなる交流戦略委員会を設置、事業の進行状況の確認・内容の検討を行うため、令和4年度はオンラインにより3回開催した。その他、ワーキンググループを3回、実務担当者会議を2回行った。

事業内容としては、渋谷区在住の4年生～6年生の子供が京都やましろ子ども同士の交流を目的とした事業を実施。

#### ・京都の資源を活用した渋谷カルチャー進化事業

20代をターゲットに、京都山城のお茶と産品を活かした「究極のお茶セット」を考案。

#### ・東京の資源を活用した京都の茶文化進化事業

渋谷キャストガーデンにおいて、若者にお茶を淹れる・楽しんで楽しむことを目的に「究極のお茶セット」のお披露目・提供や、山城地域自治体特産品の販売を実施。また、スタンプラリー&お茶の飲み比べやアンケートキャンペーンを実施。

### 3. 京都やましろ地域×東京しぶや連携

#### ～和文化×多文化関係人口創出プロジェクト事業(地方創生推進交付金)

##### KPI (山城全域)

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前		本事業終了時の目標値		令和4年度の目標値		令和4年度の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
観光消費額(億円) ※1	2,459	R2.3	2,915	R5.3	2,915	R5.3	2,218	R5.3
両地域において企業等が連携して開発したプログラム、商品の件数(件)	0	R2.3	3	R5.3	3	R5.3	2	R5.3
両地域の連携事業へ参画した個人のうち継続して参加意欲がある人数(人) ※2	0	R2.3	150	R5.3	150	R5.3	335	R5.3
イベント参加者へのアンケートによりやましろ地域と渋谷区の連携が大切とする住民の割合(%) ※3	23.0	R2.3	38.0	R5.3	38.0	R5.3	97.66	R5.3

※1 山城地域の額、渋谷区の額の合計額を設定(山城地域の額は、京都府観光入込客調査報告書により算出。渋谷区は、公的な統計で算出されていないため、東京都全体の観光消費額を母数とし、東京都全体の滞在者数のうち、渋谷区の滞在者数が占める割合を掛けて推計したもの。)

※2 「お茶の京都大茶会」を対象にしたアンケートの結果を使用。

※3 「お茶の京都大茶会」を対象にアンケートを実施し、「両地域における連携が大事」と回答した渋谷区住民の割合。

### 3. 京都やましろ地域×東京しぶや連携

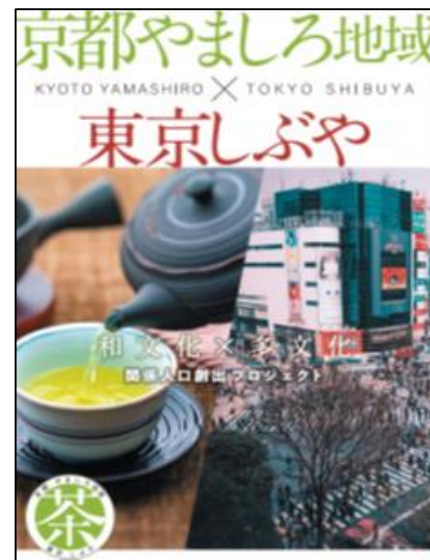
～和文化×多文化関係人口創出プロジェクト事業(地方創生推進交付金)

#### 事業の効果

- 子供交流事業では、久しくできなかったリアルでの交流を通して、お茶はもちろんのこと、それだけではない京都やましろの魅力を体感していただくことで、子どもの交流を促進することができた。
- 京都の資源を活用した渋谷カルチャー進出事業では、現地生産者との企画会議を行い、「お茶」+「お菓子」+「容器」+「飲み方」を組み合わせとした「究極のやましろお茶セット」を考案した。
- 渋谷キャスト ガーデンにおいて、「宇治茶を知り、宇治茶を味わい、京都やましろ地域を体感する」をコンセプトに「買う」「知る」「体験する」の3つの企画を軸に、京都やましろ物産展の開催や「美味しいお茶の淹れ方、楽しみ方」リーフレットの配布、上記「究極のやましろお茶セット」により京都やましろ地域のお茶の味わいを体験していただくことで、京都山城地域の地域の魅力を発信することができた。

#### 事業を終えて

令和2年度より3年にわたる事業であったが、コロナ禍による移動制限下での事業実施となり、計画立案後に中止や変更、オンラインへの切り替えなど、状況に応じて臨機応変に対応しながら事業を進めたことにより、KPIの面では令和4年度全項目達成となり、令和元年の事業申請時に想定した一定の成果が得られた。今後本事業に関わった12市町村の自治体間の連携、民間事業者の取り組みが加速され、本事業をきっかけに京都山城地域に関心を寄せた渋谷区民・関係者との交流が深まることに期待したい。



京都やましろ地域×東京しぶや連携  
パンフレット



美味しいお茶の淹れ方、楽しみ方  
パンフレット

# 井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	2
どちらかといえば有効であった	4
どちらともいえない	3
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

## 委員の主なコメント

- 事業の実施により人の気持ちは捉えたと考える。（金融機関）
- 東京の方には、京都山城のお茶の需要があり、お茶の販路に適していると考え（金融機関）
- コロナで、リアルな交流ができていなかったことは非常に残念ですが、普段合わない人との交流ができたのは意義があると思う。ズームでも良いので交流が続けばと感じた。（行政機関）
- コロナで活動が制限され、観光消費が伸び悩んだが、西地域への関心が伺えた。（金融機関）
- こういった連携が大切に思われてたのかなど、アンケート結果が評価される詳しい内容を知りたい。（産業界）
- 渋谷から山城地域への希望が多いところは評価できる。（産業界）
- 山城地域5市6町1村の中で、井手町がどこまでアピールできたのかが気になった。（子育てサークル）
- 渋谷以外との地域交流や、相互でのアピール事業【〇〇県×井手町のコラボ物産展】等を行うと  
もっと地域が盛り上がるのではないかと感じた。（子育てサークル）
- 井手町に宿泊施設が建設されれば良いと感じた。（産業界）

# 1. ～自然と共に生きる井手の里山～周遊観光ルート整備創生計画

(地方創生整備推進交付金)

**交付対象事業名：～自然と共に生きる井手の里山～周遊観光ルート整備創生計画**

**令和4年度事業額：43,285,000円 交付金充当額：21,642,500円(補助率1/2)**

(\*R3繰越事業費含む)

## 事業内容

井手町では、収穫体験が楽しめる体験型観光農園やアウトドア体験ができ、宿泊も楽しめる大正池グリーンパークなどがあるが、町域に観光・交流拠点が点在しており、これらを結ぶ道路網が十分に整備されておらず、周遊性に乏しいことが課題であった。

今後、整備される国道24号城陽井手木津川バイパスを縦の周遊・流通の軸とし、本事業において整備する町道及び林道により横の道路ネットワークを構築することで、井手町の豊かな自然の魅力を感じていただける周遊ルートの整備を行うとともに、各施設の連携を強め地域産業の基盤強化を図る。

**計画期間：令和3年度から令和7年度まで（5か年度）**

地方創生整備推進交付金（道の整備事業）

町道 2.703km、林道 2.84km 総事業費 680百万円

町道 640百万円（うち国費 320百万円）、林道 40百万円（うち国費 12百万円）

### 整備予定の路線名

- ①町道12号線ほか3線 道路改良（建設課）
- ②町道34号線ほか1線 道路改良（建設課）
- ③町道49号線 道路改良（建設課）
- ④林道片原山線 舗装改良（産業環境課）

# 1. ～自然と共に生きる井手の里山～周遊観光ルート整備創生計画

(地方創生整備推進交付金)

## KPI (井手町)

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前		本事業終了時の目標値		令和4年度の目標値		令和4年度の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
指標1 観光地等間のアクセス改善 森林整備の効率								
大正池～展望台～観光農園 ～道の駅(分)	46	R3.3	41	R8.3	45	R5.3	45	R5.3
六体石仏～木材加工場 (分)	47	R3.3	34	R8.3	44	R5.3	47	R5.3
指標2 観光交流の活性化								
道の駅の年間来場者数(万人)	0	R3.3	15	R8.3	0	R5.3	0	R5.3

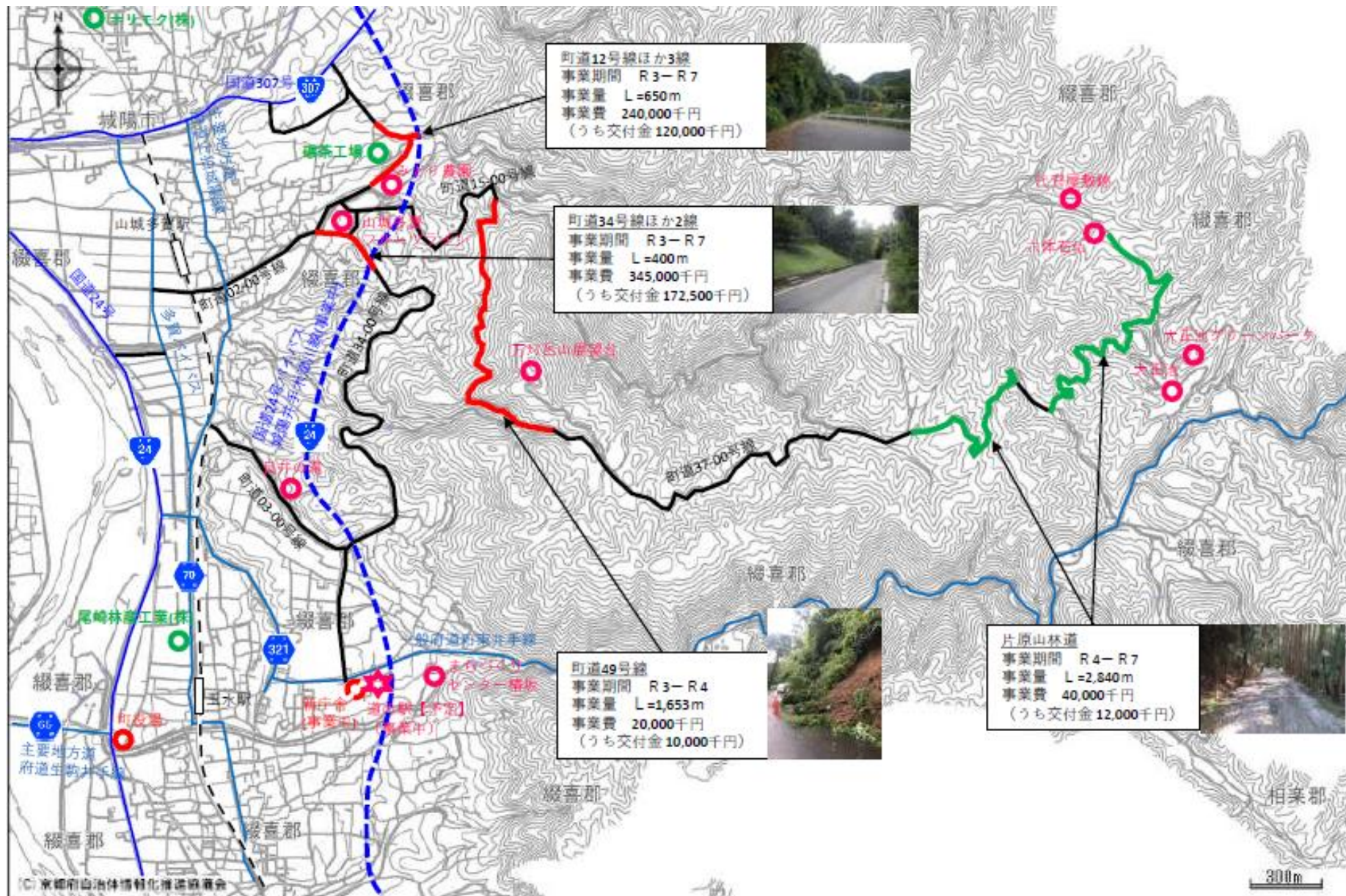
## 事業の効果と今後の展開

○町道のうち、国道バイパスへの2箇所へのアクセス道路の整備については、これまでに測量・設計を行い令和5年10月に地元へ計画説明を行ったところであり、今後、用地測量・買収を進める予定である。また、町道49号については、令和4年度に続き、R5年度も部分拡幅工事を実施している。

○林道の事業箇所については、令和3年度の府の工事迂回路として一部整備されたため、計画を見直す予定である。



# 整備する施設の整備区域又は整備箇所を示した図面



# 井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	4
どちらかといえば有効であった	3
どちらともいえない	2
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

## 委員の主なコメント

- バイパスの整備は必須なので、早期着工が望ましい（金融機関・産業界）
- 井手和束線はサイクリストが多いので、道の拡幅などの整備が進めば、より交流人口の増加が望める（金融機関・産業界）
- テオテラスを拠点にライフラインを整備していただき、井手町の人口増加を望む（産業界）
- 今後、バイパス沿いに自然公園などを作ればよいと考える（金融）
- 子ども達が安全に登下校できる様にしていきたい。（子育てサークル）
- 新しいルートが完成し、各施設との連携によって、今後どのように活性化していくのか楽しみである。（子育てサークル）